



2018年度 宮崎県立西都原考古博物館 国際交流展



海山に宿る神々 ~日韓の祭祀遺跡~

바다와 산에 깃든 신~한일의 제사유적~

**入場
無料**

2018 10.6 Sat (土) ▶ 12.2 Sun (日)
(平成30年)

関連講演会「祭祀遺跡の研究は何を明らかにしたか」

日時：2018(平成30)年10月27日(土)13:00~16:00 場所：西都原考古博物館1階ホール
講師：俞 炳夏 氏(韓国国立慶州博物館)、笹生 南 氏(慶應義塾大学)

写真提供：黒木一明(上) / 韓国国立全州博物館(下)

宮崎県立西都原考古博物館
Saitobaru Archaeological Museum of Miyazaki Prefecture

〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅5670番
TEL.0983-41-0041 FAX.0983-41-0051
<http://saito-muse.pref.miyazaki.jp>

開館時間：10時~18時(入館は17時30分まで)
休館日：月曜日(国民の祝日と重なる時は翌日)
国民の祝日の翌日(休日に当たる時を除く)

宮崎県では、記紀編さん1300年記念事業の一環として、ユネスコ無形文化遺産に向けて「宮崎の神楽」、世界文化遺産に向けて「南九州の古墳文化」を発信しています。

海山に宿る神々 ~日韓の祭祀遺跡~

바다와 산에 깃든 신~한일의 제사유적~

古来、人々は自然の中に神々が宿ると信じ、様々な場所で神まつりを行ってきました。今回の展示では、日本と韓国における海や山の祭祀遺跡を中心に取り上げ、そこに込められた人々の信仰や思いについて考えます。

日本の山の祭祀遺跡

日本列島では、大和の三輪山のような円錐形の秀麗な姿をした山を「神奈備山」として神聖視してきました。また、火山の噴火は神の怒りが原因と考え、荒ぶる神を鎮めるための祭祀も行われてきました。南九州の火山である霧島山は奈良時代に神格化され、中世には戦の神としても篤く信仰されました。

[主な展示資料]

火山灰(新燃岳) 宮崎県総合博物館所蔵
神舞面 狹野神社所蔵

韓国の山の祭祀遺跡

韓半島でも、天の神に祭祀を執り行う場所として山が選ばれました。半島南西部を代表する霊峰である月出山では、統一新羅の時代から国家祭祀が行われていたと記録に残りますが、近年の発掘調査で祭祀遺跡の存在が確認されました。月出山には高麗~朝鮮時代の仏教遺跡も濃密に分布しています。

[主な展示資料]

香炉蓋・青磁托(月出山祭祀遺跡) 木浦大学校博物館所蔵
金剛地藏菩薩坐像・舍利具(龍岩寺址) 国立光州博物館所蔵

日本の海の祭祀遺跡

女界灘沖合の沖ノ島での祭祀は、中国大陸や韓半島との交渉のため渡海する必要に迫られたヤマト王権の関与で始まり、奈良~平安時代には律令官人の乗船に際し、近海の島々でも祭祀が行われました。そこでは銅鏡が重要な供献品でしたが、日向国の神門神社には島々の祭祀で捧げられた銅鏡と同型の鏡が多数伝わります。南九州に多い媽祖像は、明~清代の中国商人の活動を垣間見せます。

[主な展示資料]

銅鏡 神門神社所蔵
媽祖像 個人蔵

韓国の海の祭祀遺跡

韓半島でも孤島や海に面した断崖など、航海上の難所を望む場所に祭祀遺跡が分布しています。竹幕洞祭祀遺跡は4世紀頃に始まる百濟が関与した祭祀場と考えられていますが、祭祀がピークを迎える5~6世紀頃には加耶系・倭系の祭祀遺物も見られ、当時の海上交通の実態を解明するうえで重要です。高麗~朝鮮時代には中国に由来する海神祭祀も行われるようになります。

[主な展示資料]

陶質土器・石製模造品(竹幕洞祭祀遺跡) 国立全州博物館所蔵
白磁・瓦(南海神祠址) 国立羅州博物館所蔵



竹幕洞祭祀遺跡で行われた祭祀の様子(想像図) 国立全州博物館提供

平成30年度 展示会情報

企画展Ⅱ 2019(平成31)年 1月12日(土)~3月17日(日)

どきを編む ~宮崎県の縄文土器~

土器を年代順に並べていく作業を編年と呼びます。展示会では、編年を通して宮崎の縄文土器を読み解いていきます。



宮崎県を代表する縄文土器 (県内産物)

同時開催

地下を探る

~日本のGPRはどこまで到達したのか~

地中レーダーによる最新成果をパネルにて紹介します